組織のダイナミズム研究会第 100 回記念会

期日：2026 年 10 月 17 日(土)
場所：文京区シビックセンター
区民会議室４階ホール
主催：組織のダイナミズム研究会

組織のダイナミズム研究会
第100回記念講演会

人・組織・技術がつくる
これからの社会を共に考える

日本企業の AI活用・DXの成功率を上げるには

――「デジタルものづくり敗戦」「SaaSの死」の教訓に学ぶ技術経営――

技術、人、情報、組織をつなぎ、
AI時代の企業価値と社会の未来を考える

講演会開催の主旨

かつて、半導体や産業ロボットなど、日本が世界の最先端を牽引していた技術分野がありました。しかし今、その多くで日本企業は厳しい競争に直面しています。そこで、「DX を進めればよい」「技術競争力を高めればよい」と考えがちですが、そもそも、それは何のためなのでしょうか。私たちは技術によって、これからどのような社会をつくろうとしているのか、その未来のあり様から目的を捉え直し、技術、人、情報、組織をどう結びつけていくかを考えることが、AI時代の技術経営に求められています。今回の講演会では、特に情報技術の視点で、新世代の技術を如何にマネージメントしていくかを考えます。

講演概要

- 日本の強みであった「ものづくり」が、デジタル技術基盤で欧米勢に後れをとり、「デジタルものづくり敗戦」とも指摘される現状を考えます。
- AIの急速な進歩により、従来のクラウド型ソフトウェア企業の「SaaSの死」が話題となる一方、独 SAP 社の事例から新たな技術経営の可能性を探ります。
- 企業のAI活用やDXの成功率は、いまだ1～2割程度に留まっており、技術経営の根本的な考え方の見直しが求められています。
- 国内企業の成功事例（経産省DXプラチナ企業「トラスコ中山」）を題材に、組織体制、プロセス・制度、人材管理、AI活用の観点から、今後の実践策を議論します。

日時　2026年10月17日(土)
14:00～16:30　［第３週］

場所　文京区シビックセンター
区民会議室 4 階ホール
https://www.city.bunkyo.lg.jp/b040/p006602.html

参加費　講演会参加　無料
※終了後、近隣の飲食店での懇親会を計画しています
（懇親会会費 2,000 円）



講 演 者
三澤 一文 氏
（みさわ・かずふみ）
Emerton シニア・アドバイザー
金沢工業大学大学院 客員教授

主な経歴
1. シーメンスデジタルインダストリーズソフトウェア
（旧シーメンス PLM ソフトウェア）代表取締役社長
2. SAP ジャパン 専務執行役員
3. ベイン・アンド・カンパニー　パートナー
4. アクセンチュア　マネジング・ディレクター
5. 法政大学経営学部 教授

早稲田大学理工学部卒、米国 MIT（マサチューセッツ工科大学）工学修士。

参加お申し込み先

参加ご希望の方は、下記事項を明記の上、
メールにてお申し込み下さい（10月10日(土)まで）。
- ☐ お名前
- ☐ ご所属
- ☐ 懇親会と講演会にご参加、または、講演会のみにご参加

オープン開催ですので、ご遠慮なく、お申し込みください。

その他

資料　当日、会場にてレジュメを配布します。
主催　組織のダイナミズム研究会
第100回記念講演会コーディネータ　池邊 純一

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

組織のダイナミズム研究会

100 回記念会を迎えて

組織のダイナミズム研究会会長 伊東俊彦

私たちの「組織のダイナミズム研究会」は、2018 年 4 月に第 1 回を開催して以来、8 年半にわたり活動を続け、この 10 月に第 100 回を迎えることになりました。現在の研究会だけを見れば 8 年半の歩みですが、その源流をたどると、32 年以上前にまでさかのぼります。

活動期間	期間(月)	所属学会	研究部会名/研究会名	略名	主査・幹事
1992.4－1994.3	24	経営情報学会	統合化情報システム	IIS	海老沢栄一
1994.4–1995.3	12	経営情報学会	統合化情報システム： エンタープライズトランスフォーメーショ 分科会	IIS：ET	海老澤栄一 卜部正夫
1995.4–1997.3	24	経営情報学会	エンタープライズトランスフォーメーション	ET	松島 桂樹 杉野 周
1997.4–1999.3	24	経営情報学会	変わり続ける組織	Tr.O	竹之内 隆 伊東 俊彦
1999.4–2003.3	48	経営情報学会	企業変容と情報技術	ET&IT	奥村 経世 伊東 俊彦
2003.4–2007.3	48	経営情報学会	情報と企業変容	I&ET	奥村 経世 伊東 俊彦
2007.4–2010.3	36	経営情報学会	組織情報と変容の諸相	OI&T	奥村 経世 池邊 純一
2010.4–2014.3	48	経営情報学会	組織・人・情報とイノベーション	I&OHI	伊東 俊彦 奥村 経世
2014.4－2018.3	48	経営情報学会	イノベーションと組織のダイナミズム	I&OD	奥村 経世 伊東 俊彦
2018.4－現在に至る	103	独立研究会	組織のダイナミズム	ODSG	伊東 俊彦 向井 和男
合計期間：32年7ヶ月		－	研究会数：10	－	－

私たちの研究活動の原点は、1992 年 4 月に経営情報学会の中に設けられた「統合化情報システム研究部会」にあります。1994 年には、その分科会として「エンタープライズ・トランスフォーメーション分科会」が発足し、その後も企業変容、情報技術、組織変革をめぐる研究を重ねてきました。

そして 2018 年 4 月、経営情報学会の枠を離れ、学会に所属しない独立した研究会として「組織のダイナミズム研究会」が新たに出発しました。

こうして振り返ると、研究会の名称や所属の形は変わってきましたが、そこには一貫した問題意識があったと思います。それは、企業や組織が社会や技術の変化にどのように向き合い、どのように自らを変えていくのか、という問いです。情報システムから企業変容へ、さらに組織、人、情報、イノベーションへと研究の対象は広がってきました。近年は AI や DX をはじめとする技術革新が、企業経営だけでなく、仕事の進め方、人の役割、組織のあり方そのものに大きな変化をもたらしています。こうした時代だからこそ、技術だけでなく、組織、人材、制度、経営を一体として考えることに、この研究会の社会的な意味があるのではないかと思います。

私たちの研究会では、研究者と実務家が、それぞれの経験や問題意識を持ち寄り、自由に意見を交わしてきました。理論だけでは捉えきれない現実があり、実務の経験だけでは十分に説明できないこともあります。その両方を行き来しながら自由に議論できることが、この研究会の大きな特徴です。コロナ禍では例会を開けなかったり、Zoom だけで開催したりした時期もありましたが、その時々にできる方法を工夫しながら、皆さんと一緒に歩みを続けてきました。毎月一回の例会は、一つひとつを見れば小さな積み重ねですが、それが 100 回になったことを思うと、やはり感慨深いものがあります。この 100 回は、研究発表をしてくださった方々、議論に参加してくださった方々、そして毎回の運営に力を貸してくださった

皆さんによって形づくられてきたものです。

なかでも、向井さん、池邊さんには、多くの研究発表とともに、毎回の準備、会場の確保、会計などを継続して担当いただきました。また、中谷さんにも、多くの研究発表に加え、毎回の Zoom の準備を引き受けていただきました。あらためて、御礼申しあげます。100 回は一つの節目ですが、同時に 101 回からの新しい出発点でもあります。これまで積み重ねてきたものを大切にしながら、新しいテーマ、新しい考え方、そして新しい出会いも取り入れ、これからも本研究会らしい自由な議論を続けていきたいと思います。ぜひ本研究会へご参加いただき、第 100 回記念会以降も、皆さんと一緒に、楽しく実りある会にしていきましょう。これからも力を合わせて歩んでいきましょう。

研究領域

本研究会では、組織の変化と発展を多様な視点から考えるため、経営・組織、人材、情報技術、社会の動向など、幅広いテーマを取り上げてきました。これまでの研究テーマは主に次の 8 領域に整理できます。

分類	研究領域	主な内容・タイトル例
1	組織論・組織変革	ティール組織、チェンジマネジメント、企業文化、組織風土、組織が変われない要因、組織のダイナミズム
2	DX・デジタル経営・ITマネジメント	DX推進、デジタル変革、IT部門、ITガバナンス、デジタル競争戦略、製造業DX、自律的DX
3	AI・生成AIと社会／組織	シンギュラリティ、AI倫理、生成AI、ChatGPT、AIエージェント、AI-Ready、フィジカルAI
4	イノベーション・経営戦略	ディスラプション、デザイン思考、ダイナミック・ケイパビリティ、エコシステム、破壊的戦略、エフェクチュエーション
5	働き方・人事・人材・リーダーシップ	ジョブ型雇用、メンバーシップ型組織、働くことの意味、人的資本、リーダーシップ、ピア・サポート
6	先端技術・技術動向	量子コンピュータ、自動運転、VR/XR、暗号、Web API、電気自動車、手書きデジタル技術
7	社会・地域・サステナビリティ・公共政策	SDGs、地域活性化、中小企業支援、起業、ライドシェア、エネルギー、脱炭素化、日本経済
8	情報セキュリティ・情報社会・研究会活動	情報セキュリティ、ICTの課題、メディア・リッチネス、研究会運営、サロン研究会

この 8 分類は、それぞれ独立した区分ではなく、互いに関連する研究領域です。例えば、DX や生成 AI の活用は、技術の導入だけでなく、組織文化、意思決定、人材育成、働き方の見直しにもつながります。また、地域社会や環境の課題は、企業の経営戦略や組織のあり方を考えるうえでも重要です。

本研究会の特徴は、こうした領域を横断し、技術・人・組織・社会の関係から「組織のダイナミズム」を探究する点にあります。100 回までの蓄積を土台として、今後も理論と実践を結びつけながら、組織が変化に適応し、新たな価値を生み出す条件について研究を深めていきます。

全 100 回一覧表と研究会へのリンク

冒頭の「100 回記念会を迎えて」に述べたとおり、本研究会は 2018 年 4 月に開催してから 8 年半となります。
全 100 回一覧表へのリンクと研究会ホームページへのリンクの QR コードを掲載します（右図）。

全 100 回一覧表

研究会ホームページ

研究会出版物

本研究会が「組織のダイナミズム：幸せな組織を求めて」のタイトルで、Amazon Kindle から出版した電子書籍です。税込み 500 円です。ご興味があればお買い求めください。右記 QR コードでリンクします。



組織のダイナミズム研究会の紹介

「組織のダイナミズム研究会」は、2018 年４月に創設された学会（元経営情報学会）に所属しない自由で独立した研究会です。本会の英語表記は”Organization Dynamism Study Group“で、略称は”ODSG”です。

本会の目的は、「組織のダイナミズム」などに関する研究を実施することにより、会員の研究および会員相互の親睦に寄与することと社会に貢献することです。

本会の例会等は原則、毎月第４土曜（または他の土曜）の 14:00～16:30 に開催しています。これまでの活動内容などは、前記（全 100 回一覧表と研究会へのリンク）の「研究会ホームページ」をごらんください。

研究会入会方法

本会の会員としてご入会希望の方は、以下の「組織のダイナミズム研究会入会申込書」に必要項目を記入のうえ、本会の役員へ当申込書をお渡しください。なお、会員には正会員（年会費 1,000 円）とメール会員（年会費なし）があります。正会員は原則、定例研究会での発表または、発表者の紹介支援などが求められます。メール会員は、発表などの義務はありません。

――――――――――――――――――――――――――――――――――――――切り取り――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

組織のダイナミズム研究会入会申込書

会員の種類：（　）正会員 、　（　）メール会員　（どちらかに「✓」）
　正会員の場合は、申込時に 1,000 円納金ください

氏　名：

住　所：

電　話：

メールアドレス：

所属組織（無記名も OK）：